

安全データシート

作成：2015 年 11 月 4 日

改定：2024 年 10 月 29 日（第 3 版）

1. 製品及び会社情報

製品名	プレモル 13
会社名	株式会社エコプロテック
住所	大阪市平野区長吉川辺 3 丁目 20 番 3 号
電話番号	06-4305-3811
推奨用途及び使用上の制限	建築、土木等の材料として用いられる。
整理番号	002M

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	分類できない	
健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1A
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器特性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）
環境有害性	分類できない	

※ 上記で記載がない危険有害性は、分類基準に該当しない。（「区分に該当しない」か「分類できない」）

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起後 危険有害性情報

危険
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
遺伝性疾患の恐れ
発がん性の恐れ
呼吸器への刺激の恐れ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害

注意書き

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
粉じんを吸入しないこと。
屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。
取扱いの後は手、顔をよく洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／防じんマスクを使用すること。

応急処置

- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- 皮膚（又は髪）に付着した場合：汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗
うこと。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させるこ
と。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
- 異常が見られる場合は、直ちに医師に連絡すること。
- 気分が悪いときは医師の診断／手当てを受けること。
- 特別な処置が必要である（このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ）。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物／容器を国、都道府県または市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS分類に該当しない危険有害性

- 多量に吸入、経口摂取すると、咳、悪心、嘔吐等を起こす恐れがある。
- 多量、又は長時間にわたって吸入した場合、塵肺を起こす恐れがある。
- 水と接触するとアルカリ性（約 pH12）を示し、目、鼻、皮膚に対し刺激性があり、目の
角膜、鼻の内部組織、皮膚に炎症を起こす可能性がある。
- 極微量のクロム化合物が含まれており、六価クロムに対して過敏である場合にはアレルギー
が起こる可能性がある。

3. 組成、成分情報

単一製品 混合物の区別 混合物

組成および成分情報

成分名	CAS 登録番号	化審法番号	濃度（％）
ポルトランドセメント	65997-15-1	1-193	≧25
		1-194	
		9-2408	

結晶質シリカ	14808-60-7	1-548	≒75
添加材	非公開	-	≦5

4. 応急処置

飲み込んだ場合：	無理に泣かせないで、水で口の中をよく洗浄したのち、直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：	速やかに清浄な水で 15～20 分間注意深く洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：	速やかに水で洗い流し、必要に応じて医師の処置を受ける。
吸入した場合：	速やかに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師に連絡すること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：	気分が悪いときは医師の診断および手当てを受けること。
応急処置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。 特別な処置が必要である（このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ）。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	周囲の火災状況に適する消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤	製品に直接水を使用すると安定固化することに留意する。
火災時特有の 危険有害性	情報無し
特定の消火方法	消火活動は原則、風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災地域から容器を移動する
消火活動を行うものを特別な保護及び予防措置	消火作業の際は適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	保護具を着用し 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な保護具を着用する。 風下で作業を行わない。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 安全に対処できる場合は漏えいを止める。
環境に対する注意事項	粉塵が飛散しないようにする。 河川、湖沼、排水路下水側溝などに排出されないように注意する。

	公共水域へ流出した場合、必要に応じて所轄の消防署、警察署などの監督官庁へ届ける。
封じ込め及び浄化の方法・機材	掃除機、スコップ、ほうきなどで、できるだけ粉体の状態で回収し廃棄まで容器で保管する。 やむを得ず床面などに残ったものは水で洗浄する。 洗浄水は回収し、中和処理などにより適切に処理する。 回収物や回収した洗浄水は、【13. 廃棄場の注意】に従い、廃棄または排水する。
二次災害の防止策	粉塵が飛散しないように速やかに回収する。 排水路側溝などへの流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱いは、換気のよい場所で行う。

眼、皮膚への接触を防止するため状況に応じ保護眼鏡、保護手袋などの保護具を着用する。

密閉された場所における作業の場合は、局所排気装置を設置する。

安全取扱注意事項

粉塵が飛散しないように取り扱う。

眼、皮膚、衣類などに触れたり、吸入したり飲み込んだりしないように、防塵マスク、保護メガネ、手袋など適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。

取り扱い後は、手、口、眼、顔などを洗浄する。容器の転倒、落下に注意し、容器を引きずる又は衝撃を与えるなどの乱暴な取扱いをしない。

接触回避

アルカリ性なので酸性の製品との接触を避ける。

衛生対策

取り扱い後は、手、顔などをよく洗い、休憩所などに、手袋などの汚染保護具を持ち込まないこと。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、乾燥した冷暗所に粉塵が発生しない方法で保管する。

水の接触の恐れがない場所に保管する。

施錠などにより部外者が触れないようにする。

子供の手の届かないところに保存する。

防止のため密閉可能な袋または容器を使用すること。

安全な容器包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

$E(\text{mg}/\text{m}^3) = 3.0 / (1.19Q + 1)$ Q：遊離珪酸含有率(%)

許容濃度

ポルトランドセメント

日本産業衛生学会

吸入性粉塵 1 mg/m³

総粉塵 4 mg/m³

ACGIH

TWA 1 mg/m³

結晶性シリカ

日本産業衛生学会

吸入性粉塵 0.03 mg/m³

ACGIH

TWA 0.025 mg/m³

設備対策

室内で取り扱う場合は管理濃度以下にするために十分な能力を有する換気設備を備える。

多量に扱う場合は集塵機を設置する。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用すること。

衛生対策

取り扱い後は手洗い、うがい、洗顔などを充分に行うこと

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体・粉末
色	灰色
融点・凝固点	データなし
沸点又は所有店および沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限および爆発上限界／	データなし
可燃限界	
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	水と接触すると 11～13
動粘性率	データなし
溶解度	水に難溶
蒸気圧	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
密度及び相対密度	約 1.7（見かけ比重）
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他	水硬性

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の条件では危険な反応は起こらない。 水と反応して安定固化する。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	取扱い時に粉じんを発生させない。 湿度の高い環境に長時間置かない。
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性経口	データ不足のため分類できない
急性毒性経皮	データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	GHS 定義における気体ではない
急性毒性（吸入：蒸気）	データ不足のため分類できない
急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性刺激性	水と接触すると強アルカリ性（pH12～13）を呈し、鼻、皮膚に対して刺激性があり、鼻の内部組織、皮膚に炎症を起こす可能性がため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性 眼刺激性	水と接触すると強アルカリ性（pH12～13）を呈し、眼に対して刺激性があり、眼の角膜に炎症を起こす可能性がため、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性	データ不足の為分類できない in vivo 変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性であったことから、区分外とした。なお、OECD ガイドラインにはない特殊な in vivo 試験系(気管内投与されたラットの肺上皮細胞における hprt 変異の測定)において突然変異陽性を示す(炎症作用による可能性あり)など、「試験結果が相反しており、遺伝毒性の評価はまだ確定していない」とされている。また、in vitro 変異原性においては、Ames 試験のデータはなく、染色体異常試験で陰性、小核試験で陽性の知見がある。
発がん性	IARC68(1997)は 1、NTP は K、産衛学会勧告は 1 に分類しており、区分 1A とした。 IARC グループ 1（ヒトに対して発がん性がある）
生殖毒性	データ不足の為分類できない
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	ポルトランドセメントがヒトに対して気道刺激性がある （ACGIH(7th、2010)この情報から区分 3（気道刺激性）とした。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	ポルトランドセメントについて、吸入経路では、ヒトにおいて良性のじん肺症を生じ、気管支炎、呼吸困難、咳、痰、肺炎

腫、胸痛がみられるとの報告がある（ACGIH(7th, 2010)、DFGOT vol. 11 (1998)）。

ヒトにおいて、多くの疫学研究において、結晶質シリカの職業ばく露と呼吸器への影響（珪肺症、肺がん、肺結核）が確認されている。

このほか、自己免疫疾患（強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎）、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている（SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)）。

この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている（SIDS (2013)）。

実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている（SIDS (2013)）。

したがって、区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）とした。

誤えん有害性

データ不足の為分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性短期（急性）	データなし
水生環境有害性長期（慢性）	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
余剰廃棄物

固化後、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき廃棄する。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

洗浄水などの排水は、水質汚濁防止法などの関係諸法令に基づき処理を行う。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報	該当しない
国際規制	該当しない
輸送または 輸送手段に関する特別な安全対策	なるべく粉塵が立たないような方法で輸送する。 破袋、損傷、容器からの漏れ、荷崩れなどの防止を確実に行うこと。 湿気、水濡れに注意する。

1 5. 適用法令

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
労働安全衛生法（粉じん障害防止規制）	
労働安全衛生法第 57 条 表示対象物質（結晶質シリカ）	
労働安全衛生法 第 57 条の 2 通知物質（結晶質シリカ）	
労働安全衛生法第 57 条の 3 リスクアセスメントを実施すべき危険有害物質（結晶質シリカ）	
労働安全衛生法第 57 条の 2 第 3 項 がん原性物質（結晶質シリカ）	
じん肺法	
化学物質管理促進法：第一種、第二種指定化学物質に該当しない。	
PRTR 法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない

1 6. その他の情報

記載内容は情報提供を目的とするものであり、濃度、物理化学的性質、危険・有害性に関して保証をするものではありません。

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには充分注意して下さい。

本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。

この安全データシートは、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。